

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東京応化工業(株)相模事業所新B-6棟	階数	地上5F
建設地	高座郡寒川町田端1590-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年10月9日
敷地面積	2,637 m ²	作成者	鹿島建設横浜支店一級建築士事務所
建築面積	1,825 m ²	確認日	2017年10月10日
延床面積	6,360 m ²	確認者	鹿島建設横浜支店一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 91%

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 91%

④ 上記+オフサイト手法: 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 新B-6棟は開発事業本部の研究の拠点となる施設になることから、従業員の動線及びセキュリティ計画等施設の使い勝手の向上、合理的でフレキシブルな建築・設備システムを構築に配慮し、快適な執務環境を創出した。		その他 天然ガスコージェネレーションシステム、LED照明設備を導入し、省エネルギー化を図っている。
Q1 室内環境 外部の開口部は遮音等級をT-2とし室内音環境の向上を図っている。建物の熱負荷を低減させるため、外壁に断熱サンドイッチパネル、屋上に断熱層50mm、窓にLow-E複層ガラスを採用した。床下空調システムを採用することで、上下温度差および気流を調整し、執務空間の快適性の向上を図っている。	Q2 サービス性能 両端コアを採用することで1フロアを広く利用できる平面計画とした。天井高さを3.0~3.5m確保し、東側にカーテンウォールを設けることで開放性の高い執務空間を実現している。外装内装照明計画はパース等を用いて検討を行い、整合性がとれた計画としている。内外装は必要更新期間の長い材料を採用した。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー 外皮性能を向上し、熱負荷抑制に努めた。事業所として建物消費エネルギー量を把握し消費特性の傾向分析を行うことで、効率的なエネルギー運用とモニタリングを徹底している。	LR2 資源・マテリアル 主要構造体と仕上材が容易に分別可能な仕様とし、再利用可能な部材の採用に努めた。建築材料に関しては化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別を4つ以上採用している。	LR3 敷地外環境 照明計画において敷地外へ光害が発生しないよう配慮した。事業所としてゴミの量を推計し分別回収を推進することで、ゴミを減量化・減容化し廃棄物処理負荷の抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される